第4号
2023/11/30

News Hypno

一般社団法人 日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）が発行する会報誌『News Hypno』です。
本誌を通して、会員の皆さまにとってより良い環境と役立つ情報を提供していけるよう努めてまいりますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

contents

【第4号特集】 大塚智惠氏 インストラクター・インタビュー 2

「催眠療法」の文字が目に飛び込んできたのをきっかけに、マスター・インストラクターまで導かれた大塚智惠先生。「ママさん」の愛称で多くの方から愛され、慕われている大塚先生のヒプノセラピーに対する想いとは。

連載 【ヒプノセラピー困ったときの相談室】 7

前世療法で大泣きして終えたクライエントさんから「私、催眠に入っていなかったと思います」と言われました。どうしよう！

【JBCH 勉強会レポート】 9

ヒプノセラピー勉強会「女と男が理解しあうには」（2023 年 8 月 15 日開催）に参加して
～違いを認め合いコミュニケーションでお互いによく知る・理解することが大事～

連載 【オススメ書籍・メディア】 12

『魂の伴侶（ソウルメイト）傷ついた人生をいやす生まれ変わりの旅』

連載 【前世療法・実体験漫画コーナー】 14

JBCH 会員ヒプノセラピストが、実際にセッションを行ったその前世療法を、連載漫画にしてご紹介していきます。

○ JBCH 会員の皆様へお知らせ ～ 税理士法人変更について 6
○ 編集者紹介 18
○ 運営メンバー募集のお知らせ 20
○ 会報掲載記事 公募のお知らせ 21

一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）

『News Hypno』は一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）が発行する協会会員向けの会報誌です。

【第4号特集】大塚智恵（おおつかともえ）氏インストラクター・インタビュー

全国で活躍されている JBCH 認定インストラクターの方を連載でご紹介いたします。第 3 回目のゲストは福岡県で活動されている「和のやすらぎ　枝」代表の大塚智恵先生をお迎えしました。

※編集担当：辻口真紀、三品あおい、石井文華
インタビュアー・小原由美子（JBCH 認定インストラクターで大塚先生の朋友。編集面でもご協力いただきました）

1.　まずは、大塚先生のヒプノセラピーとの出会いから、学ばれた経緯までをお聞かせください。

30 歳前後のころ、精神的に辛い時期があり、毎日、電話相談窓口に電話を掛けていました。

ある日、「今日はどこに電話をしようか」とタウンページを見ていた時、“催眠療法”という文字が目に飛び込んできたのをきっかけに、ヒプノセラピーのセッションを受けました。

“催眠療法”を知らなかった私は、催眠術で辛いことを消してもらおうという思いで受けました。しかし、そのセッションを受けた時、セラピストさんから、「催眠療法は催眠術ではなく、潜在意識を扱うもの」と教わりました。私は潜在意識については、すでに 10 年近く勉強をしていたので、それならば、セラピーを受けるより、催眠療法を学びたいという思いが強くなりました。そして、最初は福岡で催眠療法を教えている先生から学んだのですが、腑に落ちず、後にインターネット検索で、日本ホリスティックアカデミー（JHA）・村井啓一先生の存在を知ることになったのです。

JHA のサイトから、IHF（国際催眠連盟）・NGH（米国催眠士協会）などの資格を取得できると知り、人さまにセッションをさせていただくにはきちんと学び、さらに資格があった方がいいと思い、迷わず JHA の門を叩きました。

そして、JHA での村井先生による講義に感銘を受け、村井先生から全てを学びたいと強く思ったのです。

その後、JHA の当時のすべてのコースを受講し、各種インストラクター・セラピストとしての資格を得ました。また、2015 年と 2018 年のワイス博士来日の時は、アシスタントの一人として参加させていただきました。

2.　インストラクターになったのは、どのようなきっかけがあったのですか？

各コース受講終了後も、再受講で JHA に足を運んでいました。そして、JBCH 認定インストラクター養

＜大塚智恵先生 プロフィール＞
- JBCH（日本臨床ヒプノセラピスト協会）　理事
- JBCH 認定ベーシックインストラクター
- JBCH 認定マスター・ベーシックインストラクター
- IHF（国際催眠連盟）認定インストラクター
- 米国アルケミー催眠協会 認定初級インストラクター
- ブライアン・L・ワイス博士 プロフェッショナルトレーニング修了
- 日本催眠学会　評議員
- NPO 法人ヒトの教育の会　会員
- 心理セラピーにおける「生物学的教育メソッド」（故井口潔先生より授与）
- 日本福祉人材育成協会「認知症心理カウンセラー」地域医療介護従事者研修会修了
- メンタルウェルネストレーニング協会　ニューロフィードバック指導者 1 級　2 級
- 公益財団法人 明治安田こころの健康財団 精神保健講座　自閉症とコロナ修了・発達障害・専門講座修了
- 「和のやすらぎ 枝」代表

『News Hypno』は一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）が発行する協会会員向けの会報誌です。

【インストラクター・インタビュー】

村井先生と

成講座を受講し、マスター・ベーシックインストラクターとなりました。

私の個人的な感想ですが、前世療法などの講座より、インストラクター養成講座を受講した時の方が教え方は厳しかったです。そこには、“セラピストになろうという方達に、真剣にヒプノセラピーを伝えてほしい”という村井先生の熱意を感じました。教える立場になって、改めて、その村井先生の思いを感じます。

そして、皆さん、よくご存知だと思いますが、講座開催日の朝、村井先生は、お菓子や果物を用意してくださっていますよね。村井先生は丁寧にりんごの皮をむき、塩水につけて、お皿に並べてくださっているのですよね。

そのような村井先生のお姿から、“生徒さんをお迎えする際の姿勢”、スキルだけではなく、心持ちや在り方も学びました。ここが私のヒプノセラピストへの道の出発点だと思っています。

3.　大塚先生は地域での講演活動もされているそうですが、具体的にお聞かせください。

地域の保育園・幼稚園・中学校などから依頼を受けて、脳科学の視点から見た子育てについての講演会を行いました。また、各地で「人はなぜ悩むのか？」「脳と心の仕組み」などのタイトルでセミナーを100 回以上させていただきました。

ヒプノセラピーを学んだことで、幼少期の過ごし方が、人間形成に大きく影響しているということ、脳科学的にみても、幼少期の環境が大切だということがわかり、そのことを多くの参加者の方やお母様方にお伝えしたかったのです。

また同時にヒプノセラピーのセッションの経験から、幼少期の成育歴や家庭環境がしっかりしていたら、“大人になった時、悩む人も少なくなり、生きやすいのではないかな”との私の思いもお伝えしたかったのです。

しかし、中学校で講演をさせていただくと、保護者の方からは、「もう今更、そんな話はいいです。志望の高校に入学するにはどうしたらいいですか？」との質問をいただきました。また、「子育てに失敗しました。当時知っていれば、うちの子は違った育ち方をしたのでしょうね。」との反応もありました。

古希のお祝い会にて

このような経験から、講演会では子どもの年齢別に話す内容を変えなければいけないと学びましたね。

4.　日本ホリスティックアカデミーのベーシックコースのサブテキストとしても採用されていた『生物学的視点からの教育の見直し』の著者　九州大学名誉教授　故 井口潔先生*との出会いについて教えてください。

---

*井口　潔（いのくち きよし　1921 年 10 月 21 日～2021 年 9 月 5 日）享年 99 歳
九州大学名誉教授、日本外科学会名誉会長、「NPO 法人 ヒトの教育の会」初代理事長。生涯にわたり、生物学的人間教育論の普及に尽力。

九州大学医学部百年講堂で開催された『38 億年の心の成人式』という講演会で、初めて井口先生の講演を聴講しました。その中で、生物学的にヒトの生命誕生を遡るお話があり、悩みを抱えている人を退

行させるヒプノセラピーと接点があることに気付き、感動して鳥肌が立ちました。そして、いつか井口先生とお話ができたらいいなと思っていました。

すると、半年後、なんと井口先生から直々にお電話をいただきました。その後、10 年間、井口先生のもとで勉強し、一緒に講演会を開催させていただくようになりました。

村井先生にその近況報告をさせていただいたことをきっかけに、東京でも井口先生の講演会を新宿と五反田で 2 回開きました。井口先生は講演会で必ずピアノを弾かれる方でしたので、東京での講演会でも、ピアノとバイオリニストを手配するという大掛かりな準備になりました。

当日は、たくさんのヒプノセラピストさんがご参加くださり、村井先生のお力で大盛況に終わりました。とてもよい思い出です。

井口潔先生とのコラボ講演

5. 現在、福岡県の FM 放送局 「コミュニティラジオ天神」でラジオパーソナリティもされていますが、どのようなきっかけでラジオ番組を始められたのですか？

井口先生と親しくさせていただいた関係で、九州大学の医師の方々ともお付き合いするようになりました。

ある日、その医師の一人から、「大塚さん、入院患者さん達は、ラジオを楽しみにされている方が多いんですよ。その患者さん達って、ラジオから流れてきた言葉に勇気付けられたり、がんばろうという気になったりするんですよ。」というお話を伺いました。

“患者さん達に元気になっていただけるのだったら、やってみよう”という思いで、ラジオ番組を持たせていただくようになりました。「和のやすらぎ 枝」のホームページに YouTube で載せているので、ぜひ聞いてみてください。

6. インストラクターとして、大切にされていることは何ですか？

「脳科学に基づいたヒプノセラピーがいかにすごいものか」ということをまず徹底的に説明します。それから、やり方を教えています。そして、私の受講生達には、「最初からできる人はいない。ここは失敗する場所ですよ。できるのだったら、習いに来なくていいでしょ。できないから来ているのでしょ、だから、たくさん失敗しましょうね。」と、お伝えしています。

習慣になるまで、繰り返し練習することが大切だとお伝えしています。また、セッションの“やり方”はもちろんですが、村井先生から教わったセラピストとしての“在り方”についても必ず伝えています。

7.「和のやすらぎ 枝」にはどのような方が多く学びにいらっしゃいますか？

「和のやすらぎ　枝」の教室

『News Hypno』は一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）が発行する協会会員向けの会報誌です。

【インストラクター・インタビュー】

私の受講生には、精神科医、看護師、助産師など医療従事者の方が多いです。やはり、脳科学に基づいたヒプノセラピーの講座内容に確かなものを感じ、理解もしやすいようです。また、その中の看護師さん、助産師さんのご要望で、『胎内記憶』研究の第一人者である産婦人科医　池川明先生の講演会を福岡で開催したこともありました。

村井先生の講座を受けている時もそうですが、私たちは村井先生のお声とトーンで無意識のうちに催眠状態に入っていますよね。私もそのトーンやテンポを真似していますので、講座や講演会でも、無意識に催眠状態に誘導していることがわかります。色々と経験をさせていただいて、“ヒプノセラピーってすごいな”と改めて思っています。

8.　長年、ヒプノセラピーのセッションをされてきた中で、特に印象に残っているものはありますか？

あるクライエントさんの前世療法をさせていただいた時のことです。その方が語る“前世”が、“私の前世と全く同じ！”というケースがありました。

また、他のケースでは、ご姉妹でセッションにお見えになった時のことです。セッションは一人ずつ行うことをご説明すると、妹さんが、「大塚先生が怖そうだからセッションを受けるのをやめます。」とおっしゃったのです。最終的には、前世療法のセッションを受けてくださいましたが、その前世で、彼女と私は“敵対関係”にあったのです。

セッションルーム

何千人という方のセッションをさせていただいていると、このようなセッションに遭遇することもありましたね。

あるいは、年齢退行療法のセッションを受けられたクライエントさんが、帰宅後、お母様に幼児期の話をされた時、お母様が「なぜ、あなたはそんなことを知っているの？」と不思議がられたというご報告をしてくださったこともありました。

9.　前世療法で思い浮かべるイメージについては、どのようにお考えですか？

ワイス博士と奥様のキャロルさんと

「このイメージは、自分が作ったのですよね？」とおっしゃるクライエントさんは多いですが、脳はインプットしたものしかアウトプットしないと私は考えていますので、想像ができるということは、何らかの記憶が自分の中にあるということです。

私は事前面談で、あえて「イメージを作ってください。自分で作ったかどうか、本当はどうなのかは、終わった後にわかります。」と言っています。このように説明すると、納得される方が多いです。ワイス博士も「後からわかる。それは明日かもしれない。1 年後か 2 年後かもしれない。もしかすると来世かもしれない。分析するな。」とおっしゃっていますよね。

『News Hypno』は一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）が発行する協会会員向けの会報誌です。

セッション後の振り返りで、「今、イメージを作ろうと思って作れますか？」と聞くと、クライエントさんは「いや、作れません。」とおっしゃいます。催眠状態でイメージできる・作ることができるということは、記憶だと思うのですよね。そして、クライエントさんには「自分の潜在意識の中から出てきたイメージを信じて“そうなんだ！”と思ってくださいね。」と、お伝えしています。

10. 長年、ヒプノセラピストとして活躍されている大塚先生から後輩セラピストへメッセージをお願いします。

セッションの“やり方”ではなく、セラピストとしての“在り方”を大切にしていただきたいと思っています。ヒプノセラピーというものが、いかに素晴らしいかということを念頭に置いて、セッションをしていただき、「何かあったら、初心に帰ること」が大切だと思います。

11. JBCH の会員の皆さんへメッセージをお願いします。

最先端の脳科学理論をベースとしたヒプノセラピーは必須だと思っています。JBCH が大切にしている基本を原点として捉えていただきたいと思っています。まだまだ誤解されているところもあり、流行りのような感覚で捉えている方もいるので、科学的な根拠のあるヒプノセラピーを伝えていく重要性を感じています。

12. 今後の夢や展望をお聞かせください。

私は医師ではないですが、統合医療の観点から、ホリスティック医療を目指しています。外科医だった井口先生からも、人体の部位一つひとつに意識があること、「心と体は一つ」という考え方を教わりました。心の部分と体の部分で、さまざまな方々と協力し合いながら、“クライエントさんにとっての最善を尽くしたい”と思っています。また同時に、ホリスティック医療が身近なものとなり、日本中に広がることを願っています。

＜大塚智惠先生の「和のやすらぎ　枝」＞
https://www.wanoyasuragi-eda.jp/

～ JBCH 会員の皆様へお知らせ ～ 税理士法人変更について

JBCH の税理士法人が、TRAD 税理士法人から「税理士法人ファシオ・コンサルティング」に変更となりました！

今回の変更は、JBCH で以前よりご担当いただいていた岡部様の所属が変わったことによるものです。
JBCH の会員向けの税務サービスには変更はありませんので、安心して引き続きご利用ください。

税理士法人ファシオ・コンサルティング

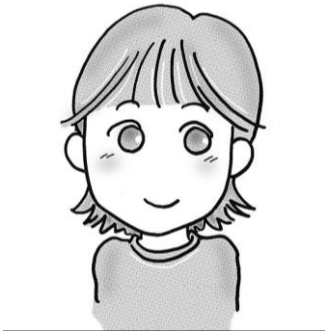
〒102-0072
東京都千代田区飯田橋 3-9-7 飯田橋丸ビル 3 階
TEL：03-3264-8363
https://fasio.biz/

詳細はこちらからご確認ください。
https://www.jbc-hypno.org/images/tax-support.pdf

【相談室】

ヒプノセラピー困ったときの相談室

この相談室では、新米ヒプノセラピストのひーちゃんが日々クライアントさんに向き合い、催眠療法を行っていく中で遭遇する様々な問題や困りごとに対して、先輩ヒプノセラピストの編集委員Ａが懇切丁寧にお答えしていきます。
（編集担当：辻口真紀）



【ひーちゃんプロフィール】
ヒプノセラピーを学び始めてようやく１年。
ベーシックコース、アドバンストコースを学び終えた後、前世療法プロ、年齢退行療法プロ、悲嘆療法プロの必須３プロコースを修了し、現在モニターさん募集中。

【今回の困った】
前世療法で大泣きして終えたクライエントさんから「私、催眠に入っていなかったと思います。」と言われました。どうしよう！

ひーちゃん：
前世療法を施術したとき、クライエントさんもたくさん涙を流されて、とても順調に進んでいたように思えました。ところが催眠から覚めたクライエントさんから、「私、催眠に入っていなかったと思います。意識も残っていましたし、前世も自分で作っていたように思えます・・・・」と言われました。どうしたらいいのでしょう？！

先輩Ａ：
催眠から目覚めたクライエントさんに「私、催眠に入っていませんでした」と言われることはたまにあります。考えられる要因とその時の対処を考えてみましょう。

まず、考えられる要因として、クライエントさんが前世療法に関しての誤解や間違った先入観を持って

いる可能性があります。セッション前に催眠状態や前世療法について十分な説明が行われていたかどうかを振り返りましょう。クライエントさんが誤解や間違った先入観を持ったままの状態で、自分が期待していた通りの体験ができていないと、催眠に入っていなかったと感じられるかもしれません。

例えば、「自分は催眠に入れるだろうか？」「催眠に入ったら意識がなくなる」「催眠に入ると自分をコントロールできなくなる」などの誤解を解消したり、催眠状態の特性や個人差についての説明をしたりして、期待を持ってセラピーに臨んでもらうことが重要です。

では、今回のように振り返りで「私、催眠に入ってなかったと思います」と言われた場合は、どう対応したら良いでしょう。

クライエントさんがセッション中の体験に疑念を抱いた場合、まずはクライエントさんの感情や意見を受け入れる姿勢が重要です。クライエントさんの不安や疑念に対して、受容的で理解のある態度を示しましょう。

そこで慌てて、「そんなことないですよ！ちゃんと催眠に入っていましたし、前世もちゃんと見られていましたよ！」などと、クライエントさんの言葉を否定したり、打ち消したりするような発言や態度はしないことです。

というのも、クライエントさんは自分が否定されたように感じて、セラピストに対して自由な発言ができなくなるかもしれないからです。この後の振り返りも浅くなって、クライエントさんの中で納得がいかないまま終わってしまう可能性も出てきます。

セラピストは落ち着いた態度で「催眠に入ってなかったと感じられたのですね」と、クライエントさんが感じている不安や疑念の気持ちを受け入れましょう。その上で、誤解を解いていきます。次に例文をひとつご紹介します。

セラピスト：「もしかしたら、催眠に対しての誤解があるのかもしれません。少し説明してもよろしいですか？」
クライエント：「はい、お願いします」
セラピスト：「催眠状態は個人差があり、深い催眠に入る人もいれば、意識がはっきりしている人もいます。前世療法には特別に深い催眠でなくても十分です。〇〇さん、額に指で触れた時、目蓋が開かなかったようですが、どうでしたか？」
クライエント：「確かに開けようとしたけど、開けられませんでした」

セラピスト：「これは目蓋のカタレプシーと言って、軽い催眠状態で現れる特性です。この催眠のレベルでもセラピーは可能です。〇〇さんがセラピーで観た前世は、こういった前世を思い浮かべようと、意図的にイメージしたものだったと思いますか？」

クライエント：「そう言われてみると、違うような気がします。なんだか自然と湧いてきたような・・。でも、最近見た映画の影響かな、とも思えたりして」

セラピスト：「潜在意識から湧いてきたイメージには意味があります。ですから、例え前世が自分で作られたイメージであったとしても、そこには大切なメッセージが含まれていると言えます。そのイメージやその時の感情や感覚が重要なのです。」

クライエント：「なるほど、そうなのですね。そういえば不思議ですが、特別悲しくも無いのに勝手に涙が出ていました。今はなんだかスッキリしています。」など、セラピー中にクライエントさんが感じたこと、体験したことをご自身で振り返ってもらいましょう。

ここでは決して「催眠に入っていなかった」というクライエントさんを否定したり、責めたりしない態度が大切です。クライエントさんご自身が内面に向き合い、気づきや癒しを受け取られるよう、ヒプノセラピストは寄り添い、サポートしましょう。

ひーちゃん：ありがとうございました。

『News Hypno』は一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）が発行する協会会員向けの会報誌です。

【勉強会レポート】

JBCH 勉強会レポート

ヒプノセラピー勉強会「女と男が理解しあうには」(2023 年 8 月 15 日開催)に参加して
～違いを認め合いコミュニケーションでお互いによく知る・理解することが大事～

（編集担当：神田早苗　副担当：綿引千恵）

☆はじめに

JBCH では、偶数月に勉強会が開催されています（通学も zoom も参加可）。毎回、ヒプノセラピーに関するさまざまな内容（テーマ）が扱われており、脳科学の点からもヒプノ関連の最新の情報を得る場ともなります。

今回は、2023 年 8 月に開催された勉強会のレポートをお届けします。

※勉強会への参加は、JBCH 認定ベーシック（基礎）コースを受講して JBCH の会員になればどなたでも参加可能です。記事の最後に今後の予定等を掲載しています。

入会のご案内：
https://www.jbc-hypno.org/membership

今回の勉強会のテーマ「女と男が理解しあうには」では、コミュニケーションが大切であり、男女はそもそも「違う」という前提を受け入れ・よく知る・理解することの大切さについて学びました（参加者 18 人、zoom 参加含む）。

☆コミュニケーションは表情だけでなく声も大事

女性はよく語り、男性はコミュニケーションが下手…
生育歴などにより例外はあるものの、概ねそのようなことであると言われている。女も男も、お母さんを見てコミュニケーションを学ぶことから、お母さんのコミュニケーション技術が非常に重要であると考えられる。

心理学者アルバート・メラビアンは人が人に好意を持つ要因が何であるのかを探る「好意」実験を行った。その結果、人が人に好意を持つのはその相手が何を喋ったのかが 7%、その相手がどんな声質（声調、速度，語気など）で喋ったのかが 38%、その相手がどんな表情で喋ったのかが 55%の影響度であると結論付けた。またさらにそれを一般化して「好意」だけでなくさまざまな「感情」にもこの法則が当てはまると著書”Silent Messages”の中で書いている。これがいわゆる「メラビアンの法則」である。

つまり、「どのような表情で言ったか」が一番重要であり、次に「どのような声で言ったか」、最後に「何を言ったか」で判断しているようだ。

表情については、「顔」が、どのようなエネルギーを持っているのかが相手に伝わるという。つまり、顔は、その人のその時の心を表しているため、表情が穏やかであると穏やかな気持ちが相手にも伝わる。

また、声については、高い声・低い声で相手に与える印象が違ってくる。高い声は明るい印象を、低い声は怖い印象を与える。例えば、お化けは低い声などをイメージしてみるとわかりやすい。

さらに、怒っている顔で優しい言葉を言われても、相手には矛盾を感じさせてしまうため、混乱を生じさせる。表情と言葉を一致させることで、真意が相手に伝わりやすくなるのだ。

☆男女のコミュニケーションの違いと「異文化」と理解していく

女性は、自分の中に子宮という「宇宙」があるため、スピリチュアルなものも信じられる感性があるのではないか。また、出産という神秘的な体験をすることもできる。そして、女性は、ただ話をしたい・語り合いたいという性質があり、当たり障りのない、会話のための会話もできる。

それは、かつて女性は、部落で子どもを産み育てるために周囲との「和」を作る必要があったため、コミュニケーションが上手になっていったのではないかと考えられる。

一方、男性は、女性と違って子宮がないためか、「感覚的にわかる」という感性が乏しく、理性・理屈でモノを考える。男性にとっては、いかに理知的に生きるかが大事なのである。

それは、かつて、男性は、狩猟生活の中で、計画を立てて実施する（獲物を捕獲する）ことが最重要であったことから、必要最低限の会話しかしてきていなかったためであろう。そのため、女性のような会話のための会話もできないし、結論を求めている会話しかできない。ということで、残念ながら女性と話す時は、男性は「聞き上手」になるしかないようだ。

つまり、男女のコミュニケーションは、それぞれがその環境や必要に応じて長年にわたり身に付けたものであり、お互いに違ったパターンの会話をするモノだと理解すること。それが、男女のコミュニケーションが、うまくいく前提である。

最初から、男と女は「違う」という視点で捉えると、そもそもお互いは「異文化」なのだということがわかり、色々な視点・色々な観点を持ちながら、相手の良いところをしっかりと見ていき、それを大事にする生き方を選択していくことが大切だ。言うなれば、昔の日本は、お見合いの文化があったことから、それまでお互いを知らずとも結婚してから相手を好きになれるように・家庭生活がうまくいくようにと、互いに努力していた。

相手を変えようとせず、自分自身を変えると、呼応して相手が変わってくるものだ。それは、自分の心の反映が相手に現れたということである。その人を大事に思う気持ちがあるなら、より良いコミュニケーションの努力をする価値があるといえる。

そして、そのコミュニケーションも、お互いの深層に何があるのかを見極め、本当に思っていることを表現していくことが大切である。それには、表層で語っていても分からないため、自分自身でも内面での対話を行い、自分を深く知っていかなければ、相手との深い部分の話はできない。

クライエントとのセッションのように、我々も催眠状態に入り、理性と少し離れたところから話に入っていくと、だんだんと自分が見えてくるものだが、それと同じことを夫婦で行うとよい。

☆結婚のカラクリと結婚生活をうまくいかせるためには「勉強」が必要

男女が出会うと、脳内物質（快楽物質）が出て、それが目を曇らせると言えるが、反面、そうでもないと結婚ができないとも言える。脳内物質は、３年くらいで消えるため、結婚してしばらくすると現実が見えるようになる。「こんなはずではなかった……」「こういう人だったの？！」と感じるが、元々そういう人であり、曇った目ではそれが見えていなかったというだけである。

そのような結婚をして後悔しないためには、結婚前にしておいた方が良いこと（テスト）として、「どこまでしっかりとコミュニケーションできるか？」を実施し、それにクリアした人だけが結婚できるようにすれば、こうした思い違いがないのかもしれない。

例えば、コミュニケーションスキルとしての「あ・い・う・え・お」（「あ」：相槌、「い」：慈しみ・労り、「う」：頷き、「え」：笑み、「お」：おうむ返し）が、できる相手なのかどうか、などである。

どのような職業に就く場合でも、ある程度は事前に勉強してからその道に入るように、結婚も、学校では教えてくれないものの、「結婚とは何か？（結婚観）」「家庭とは何か？（どのような育ち・教育を受けてきているのか）」「信条とは何か？」を勉強してからすると、幸せな家庭が築けるのではないだろうか。

その際、自分が何を求めているのかをまずは知り、自分と向き合うことが大事であり、その後、お互いにすり合わせをする必要がある。なぜなら、自分が分からない人は、他人のことはもっと分からないものであるからだ。

夫婦は、お互いがカウンセラー、セラピストであり、相手を良く知る・理解することが大事である。表情や声のトーンで、心がこもっているのを感じながら、“ちゃんと”話を「聞く」。妻は夫を理解するように努力し、夫は妻が求めるものを考えて与えるようにする。

偉人の言葉では、「結婚」について様々な表現がある。例として、次の二人の言葉を紹介する。

- 「人は、判断力の欠如によって結婚し、忍耐力の欠如によって離婚し、記憶力の欠如によって再婚する」（アルマン・サラクルー）
- 「あらゆる人智の中で結婚に関する知識が一番遅れている」（バルザック）

『News Hypno』は一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）が発行する協会会員向けの会報誌です。

【勉強会レポート】

『愛するということ』
エーリッヒ・フロム著

また、エーリッヒ・フロム著『愛するということ』によれば、「愛の基本的な要素」The art of loving として、配慮・責任・敬意・理解が大切であるという。本の中では、前書きに「人を愛そうとしても、自分の人格全体を発達させ、それが生産的な方向に向かうように全力で努力しないかぎり、けっしてうまくいかない。」という言葉や、本文の中でも「愛は技術である」「愛について学ばなければならないことがある」という表現がある。

人の経験から我々は学ぶ。昔の偉人の格言や本をも参考にしながら、子ども達に教えていくことが大事なのだ。

本来は学校で、結婚やパートナーシップについて、学ぶ必要があると良い。小中高で基本的な学びをし、「結婚すること」「家庭を持つこと」「子どもを持つこと」について、頭に思い描きながら成長することが理想的である。

現代の結婚には様々な形があり、より自由になっているが、それでもやはり基本的なこと・大切にしたいことは、同じである。家族に一人、我々のようなセラピストがいると家庭運営がうまくいくことは、間違いないので、皆さんにもそれを期待する。

☆感想

いつも勉強会は、zoom で参加しておりますが、今回は、久し振りに滋賀から東京に出向き、通学参加しました。村井先生はじめ皆様にお会いでき、嬉しかったです。リアル参加ならではの、皆様のパッションが直に感じられる楽しい学びの時間でした。ランチも皆で同じ店に行き、和気藹々とした雰囲気でした（この日は焼肉屋さんでしたよ！）

「男と女は理解し合えるのか？」といったテーマは、よく聞くこともあり、自分自身の中では、「男も女も同じ“人間”なのだから、当然、理解し合えるでしょう」と決めつけていたところがあったのですが（笑）、「イヤイヤそう簡単には理解し合えないよ」という内容でした。だからこそ、「努力が必要」、そして、「努力のしがいがある」ということですよね！

勉強会の参加者からも「パートナーシップ」（夫婦の在り方や結婚観）などについて、普段、ご自身が感じていらっしゃることや体験・経験などを聞くことができ、深いお話もあり、価値観も人それぞれなのだと思いました。どのような考えも間違っているわけではないので、面白く・興味深く感じました。

また、質疑応答も多く、村井先生のご体験やお言葉からも、このテーマは、一朝一夕に習得できないものだと感じたため、学びを重ねていきたいと思いました。

最後に、村井先生が、「男は一度、愛した人のことは、いつまでも引きずりやすく、思い続ける」という表現を講義の中でしておられ、その時は笑って聞いておりました。しかし、最近、「女性より男性の方が、実は愛が深いのではないか？！」と思う出来事が続いたこともあり、「男性は多くを語らず不器用ではあるが、実は優しくて愛が深い。そして、それが女性にうまく伝わっていないだけ」という結論に私自身も行き着き、先生のお言葉に納得の思いです。男性って、可愛いですよね！（笑）

・・・・・

☆2023 年・24 年の勉強会の予定（2023 年 11 月現在）
時間／10 時 30 分～17 時（お昼休憩あり）
3,500 円税込／1 日
詳しくは、JBCH ホームページから／
https://www.jbc-hypno.org/study

○ 8 月 15 日（火）「女と男が理解しあうには」※終了
○10 月 11 日（水）「前世へ戻る諸々の方法を学ぶ」※終了
○12 月 8 日（金）「死者との再会で生かされる」
○ 2 月 16 日（金）「身体の癒しと心の癒し」
○ 4 月 17 日（水）「セックス・セラピー（その 4）」
○ 6 月 12 日（水）「未科学について考えよう」

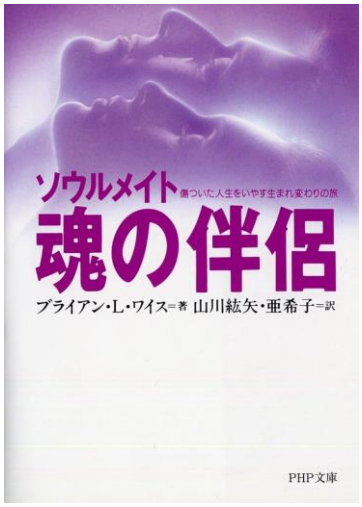
※そのほか「練習会」も、同時間・同料金で毎月開催されています。

『News Hypno』は一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）が発行する協会会員向けの会報誌です。

オススメ書籍・メディア

こちらのページでは、ヒプノセラピー各講座の学びとあわせてお勧めしたい書籍等についてご紹介しています。お勧めの作品は多数ありますが、その中から、ヒプノセラピーの活動に役立つ内容のものを取りあげました。ネタバレにはなりますが、さまざまな書籍にご興味を持っていただき、学びを深めるきっかけにしていただければ嬉しいです。
（文案：伊藤若菜　監修：村井啓一）

『魂の伴侶（ソウルメイト）
傷ついた人生をいやす生まれ変わりの旅』
（ブライアン・L・ワイス著／山川紘矢・亜希子訳）



『魂の伴侶（ソウルメイト）』では前世療法を通じて結ばれた男女の物語が描かれています。

精神科医として順調にキャリアを歩んでいたブライアン・ワイス博士は、1980 年に水恐怖症を持つキャサリンという患者の治療に当たります。年齢退行療法を何度か行い、水にまつわるいくつかのつらい体験をクリアしたにもかかわらず、依然としてキャサリンの症状は改善されませんでした。ワイス博士はまだ今世の過去に水に関する問題が残っていると考え、その問題の場面に戻るように告げたのですが、キャサリンは水との関わりのある前世へと退行したのです。ワイス博士はキャサリンの語る内容に驚き、これを信じることができませんでした。

しかし、そこからキャサリンの劇的な回復が始まり、ワイス博士もマスターの導きによって前世の存在を信じるようになっていくのです。博士はその出来事を世に出すべきか悩みました。前世を認める書籍を出版するということはこれまで築いてきたアカデミックな世界でのキャリアを危険にさらすことになるからです。4 年間迷ったあげく書くことを決意しました。原稿を書き上げてからも悩みましたが、最終的にこれを出すことが自分に課せられた使命であると確信を抱いた博士は 1988 年に書籍"Many Lives, Many Masters"を出版しました。

博士の処女作は世界的ベストセラーとなり、日本でも 3 年後に邦題『前世療法』として翻訳出版されました。本著『魂の伴侶』（原題 "Only Love Is Real"）はその後 1992 年に出版された"Through Time Into Healing"（邦題『前世療法②』）に続くワイス博士の三作目の著書となります。

『魂の伴侶』の主人公は、キャサリンの事例に惹かれ、亡くなった母親との前世でのつながりを体験したいというエリザベスと、パートナーシップにおいてどうしても親密な関係を築けないという実業家のペドロの二人です。各々が別々にワイス博士の診療を受けていました。前世療法の治療が進むにつれ、二人がそれぞれ別々のセッションで古代パレスチナでの前世に遡り、娘の自分と父親が（父親の自分と娘が）町でローマ兵に絡まれ自分の父親（父親の自分）が殺されるという出来事を語ったのです。

ワイス博士は二人が別々に語ったこのローマ時代の前世を聞いて、エリザベスとペドロがその時にローマ兵に殺された父親と娘であると確信します。またそれ以外の人生でも何度も共に暮らしていた事があることも分かりました。しかし守秘義務もありこれを二人に伝えることはできませんでした。前世(過去世)体験のなかで今世での知り合いと出逢うことは多々ありますが、この二人は今世ではまだ出逢っていなかったのです。

ある日ワイス博士はひとつの計画を実行に移しました。それはエリザベスとペドロの予約を同じ日にして、しかも二人が前後してセッションを受けるようにしたのです。それがワイス博士に出来るぎりぎりの行動でしたが二人は気づきません。ペドロの最後の治療日に再度この計画を実行しました。エリザ

【オススメ書籍・メディア】

ベスがセッションを受けてセッションルームを出たときに待合室にいたペドロを認めてお互いが会釈をしますが、二人にそれ以上の展開はありません。

その後ペドロのセッションも終わり、帰路についた空港で搭乗予定機の故障でペドロと同じ便に乗ることになったエリザベスに再会し、言葉を交わし、座席を変更して機内でお互いの前世の話を分かち合い、そこで初めて自分たちがソウルメイトであることが分かったのです。その後二人は、時空を超えて永遠の愛で結ばれるという実話に基づく物語です。

また、ワイス博士に深い叡智を教えるマスター達は『魂の伴侶』でも健在で、『前世療法』のキャサリンに次ぎ、エリザベスもまた言伝を頼まれるかのように、魂の進化・成長について語り出します。

「あなたの仕事は、これらの体験を人々に教えることです」（参照　ブライアン・L・ワイス、魂の伴侶（ソウルメイト）傷ついた人生をいやす生まれ変わりの旅、1999、P.106）

マスターから伝えられたこの言葉こそが博士の使命であり、ギフトなのでしょう。この一連の出来事の後から、ワークショップや治療では神秘的で不思議な体験をする人々が飛躍的に増えるほどに、「輪廻転生とは、大いなる知識と知恵と理解へのかけ橋なのだ」と思うに至ったそうです。

ワイス博士の姿勢は、現実世界と精神世界をつなぐバランスの大切さ、ヒプノセラピーの意味、ヒプノセラピストとしてのあり方など、深い学びを与えてくれます。ヒプノセラピストの方はもちろん、心・スピリチュアリティを大切にされている方、魂の進化成長に携わっている全ての方々に読んでいただきたい名著です。

また、本著を漫画化した『マンガで読むワイス博士の物語　ソウルメイト -愛こそが真実』（原作　ブライアン・L・ワイス／漫画　波多野秀行）もあり、こちらは美しい絵と共に著書のポイントを的確に捉えられています。

編集担当より本書を読んでの感想

日本では近年、異世界転生アニメが人気を博したり、新海誠監督の映画『君の名は。』の主題歌にRADWINPSの『前前前世』という曲が使われたり、前世や輪廻転生が日常生活の中でも話題に上るようになってきました。生まれ変わりを信じている方もいない方も「私にとって誰か特別の人がいる」「時空を超えて特別な人と永遠の愛で結ばれる」といった淡い思いを抱いたことがあるのではないでしょうか。

ソウルメイトであれば来世かいつかどこかでまた出逢うこともあるのでしょうが、この事例の中ではワイス博士がペドロとエリザベスのセッションを行って二人の繋ぎ役（ハブ）となることで、二人の魂に一種の観察者効果（※）に似た現象が引き起こされ、それによって二人を愛の再会に導く大いなる力となったのではないでしょうか。またワイス博士自身もペドロとエリザベスの不変の愛を確認するためにこの役割をあえて与えられたのではないかとも思いました。（※観察するという行為が観察される現象に与える変化のこと。）

この本を読んだとき、なんとも言えない懐かしさが込み上げてきました。かつて中学生だった私は、とあるバラエティ番組でこのエリザベスとペドロの愛の物語を目撃していました。それから20数年（！）が経ち、すっかり脳内メモリから忘れ去っていたのですが、読み進めるにつれ当時の記憶が蘇ってきたのです。

その頃から精神世界や輪廻転生への親しみを感じていたこと。それらを心のうちに秘めていたこと。時を経てソウルメイトたちと出逢い、人生のうねりの中でヒプノを学ばせていただき、当時秘めていた生き方を今まさに生きられているのだと実感しました。

また、ワイス博士はJBCH創設者・村井先生とも深い交流があったことを思うと、導き・計らいへの感謝の想いが止みません。私にとってはそんな自分との約束を思い出させてくれ、真実に触れられる本となりました。ぜひお手に取られてみてください。『あなたの中の真実』が呼び起こされるかもしれません。

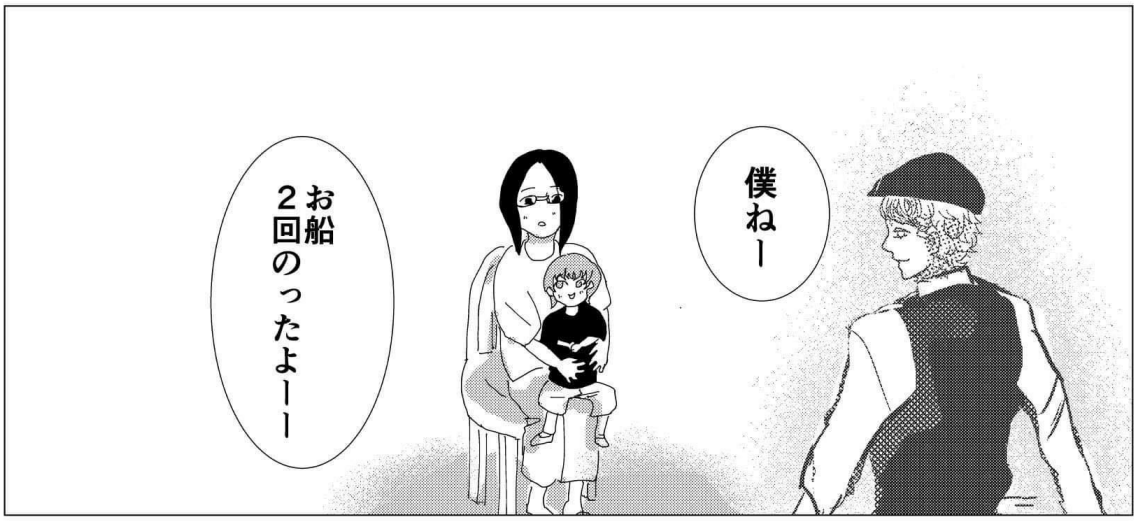
『News Hypno』は一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）が発行する協会会員向けの会報誌です。

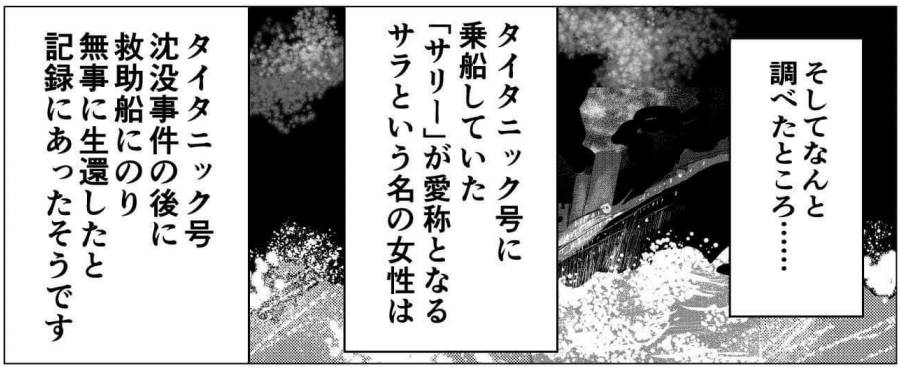
前世療法・実体験漫画　『前世療法のその後…第3回（全3回）』

こちらのページでは、JBCH 会員ヒプノセラピストが、実際にセッションを行ったその前世療法を、連載漫画にしてご紹介しています。こちらの漫画制作者は、同じく JBCH 会員で 10 代の時に漫画家を目指されて、現在はヒプノセラピストとして研鑽中の『らいち・ゆり』さんです。今回は最終回（全３回）になります。（編集担当：奥田真紀）

【前世療法・実体験漫画】

こうしてセッションは終了し
チャールズとの体験を胸に日常生活を送っていたK子さんの元に
突如とある気づきが舞い降りました
それはK子さんがお孫さんと一緒に過ごしていた日のこと……
直感でしかないけれど……もしかしたら……この子が……
にこっ
前世療法のその後…3の②
タイタニック編





前世療法のその後---3の③

タイタニック編

『News Hypno』は一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）が発行する協会会員向けの会報誌です。

【前世療法・実体験漫画】

そして……
不思議なことに
この前世をみてから
と言うもの…
K子さんは
それほど地震が
怖くなくなった
と言います
どうしても
克服できないような
苦手なものや
理由のわからない
恐怖症など
日常生活には
さまざまな
障害がありますよね
もしかすると
原因は前世に
あるのかもしれません
前世療法で
生きづらい原因を
探ることで
K子さんのように
症状が和らぐ事も
あるようです
ぜひ
皆さんも前世療法で
自身の心の中を
旅してみては
如何でしょうか♪
前世療法のその後…
タイタニック編
おわり

編集者紹介

本号より、会報 News Hypno の編集に携わっているメンバーをご紹介いたします。（五十音順）
本号では、以下の 3 点について質問してみました！
①ヒプノセラピーを知った/学んだきっかけ　②会報 News Hypno への想い　③HP/SNS の情報。

いしい　あやか
石井　文華

①私は家族の死から 10 年以上立ち直ることができませんでした。その中でワイス博士の『前世療法』と出会い、ヒプノセラピーに辿り着きました。実際にヒプノセラピーを受けると、1 回のセッションで悲しみと苦しみが癒され、前を向くことができました。この体験をもっと活かしたいと思い、村井先生のもとでヒプノセラピーを学びました。

②脳科学に基づいたヒプノセラピーを広めたい思いと、私が今こうして前を向いているのもヒプノセラピーのおかげなので、恩返しができればと思っております。

③グリーフ専門ヒプノセラピー　Letter Flower：https://letterflower-hypno.com
大切な人を亡くした方、ペットロスの方、流産・死産などを経験した方へオンライン・東京・横浜でセッションを行っております。

本号では、『特集・インストラクター・インタビュー』を担当。

いとう　わかな
伊藤　若菜

①沖縄の久高島でセラピストの方と出逢い、セッションにて母親との時空を超えた旅をしました。それが後々、事実だったことが判明。人の潜在意識ってすごい！おもしろい！と思い、ヒプノセラピーを学ぼうと村井先生の門戸を叩きました。

②様々なセラピーがある中で、ヒプノセラピーは『じぶんでじぶんを癒すこと』が特徴だと思います。また、JBCH では脳科学の観点からも学べたり、医療に携わる方など会員の幅も広いです。そういったことを踏まえ、スピリチュアリティが広がる流れの一助になれたら嬉しいです。

③https://www.explore-your-universe.com/
逗子・鎌倉でリアルセッション・zoom でのオンラインセッションを承ります。

本号では、『メディア紹介』を担当。

おくだ　まき
奥田　真紀

①子育て真っ最中の頃、たまたまエドガー・ケイシーの本を手にしたことがきっかけで、催眠や催眠療法に興味を持ち、実際に体験してみようと探して行ってみました。その初めての体験は、前世を見るといった催眠には入れなかったことを覚えています。子育てがすっかり終わる頃に学びへの興味に変わり、今に至っています。

②ヒプノセラピストという特殊な仕事上、自分 1 人では情報が得にくく、悩みも多岐に渡ると思います。会報では、多くの経験を積んだセラピストさんにシェアいただいたり、学び始めた方々との情報の共有や交流ができることを願って、少しでもお役に立った、と思っていただけると嬉しいです。

③オンアース・ヒプノセラピー：https://onearth.jp/

本号では、『前世療法・実体験漫画コーナー』を担当。

かんだ　さなえ
神田　早苗

①大学時代に友人に借りたワイス博士の『前世療法』で、“ソウルメイト”という言葉を知りました。その 20 年後に運命的な出会いがあり、その人の瞳を見ていると深いご縁を感じて、忘れていた“ソウルメイト”という言葉を雷に打たれたように思い出し、初めてヒプノセラピーを受けました。とても神秘的な世界で、言葉で表せないほど感銘を受けたため、自分自身もセラピストになりたいと導かれるように進みました。

②第 2 号から編集委員となりました^^村井先生にお声掛けいただいたのが嬉しくて、誇りに思いながら携わっております。毎回の企画や打ち合わせなどが楽しみですし、多くの方にヒプノセラピーの素晴らしさ、その可能性を知っていただきたいと思っております！

③滋賀県近江八幡市・セラピールーム萌瑚（もえこ）：
https://therapy-room-moeko.com

本号では、『勉強会レポート』を担当。

『News Hypno』は一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）が発行する協会会員向けの会報誌です。

【編集者紹介】

つじぐち　まき
辻口　真紀

①30 代で経験した父親との死別から、読みあさった本の中で出会った「生きがいの創造」でヒプノセラピーを知りました。当時は「そんな世界があるのだ」と救われた思いでした。それから 13 年後、仕事の関係で多くの方の人生相談を受けている中で、ヒプノセラピーが再び浮上し、直感で学びたいと感じ、受講しました。当時はヒプノセラピストになりたいとは思っていませんでしたが、受講直前に受けた前世療法でガラリと世界が変わり、セラピストを志しました。

②心理療法の一つとしての正しいヒプノセラピーを普及させ、より多くの方に認知されるための一助となりましたら嬉しく思います。

③吉祥寺ヒプノセラピーサロン a-hum：https://ahum-hypno.com/

本号では、『特集・インストラクター・インタビュー』と『困ったときの相談室』を担当。

まつもと　かずよし
松本　一義

①旧来から親交があった村井啓一・JBCH 代表理事が約 20 年前にヒプノセラピーを始めたことで知りました。そして 2015 年に村井氏からの誘いでワイス博士の来日ワークショップの運営をお手伝いしたことがきっかけとなり、ヒプノセラピーの素晴らしさと有用性を確信し、その後 6 年間にわたり講座に参加させていただきました。現在は自分もヒプノセラピストの一員となって、セッションや講座を行うに至っています。

②ヒプノセラピーを共に学んだ仲間でもある JBCH 会員の皆様のためになる情報をお伝えする会報として、そして世の中にヒプノセラピーに対する正しい理解を広める方法の一つとして、News Hypno がお役に立てることを願っています。

③ホリスティックアイ：https://holistic-eye.jp/

本号では、制作を担当。

みしな
三品　あおい

①山川ご夫妻翻訳の書籍『アルケミスト　夢を旅した少年』を読み、ワイス博士の来日（2018 年 4 月）セミナーに参加したのがヒプノセラピーを知ったきっかけです。

②ヒプノセラピーのセッションを口コミだけでしてきましたが、現在は休止中です。ですので、ヒプノセラピストとしての唯一の活動が JBCH の会報編集委員です。第一線でご活躍されている皆様から、毎回最新情報等の刺激を受けています。遠方の地（札幌）からでも JBCH やヒプノセラピーと関われることに感謝しています。

③人生はヒプノ（自己催眠）です。この思いから、ヒプノセラピーを楽しく日常に活かしています♪今後は断食ヒプノを予定しています。セッションご希望の方は、こちらよりご連絡ください。
https://www.facebook.com/profile.php?id=100009080060643

本号では、『特集・インストラクター・インタビュー』を担当。

わたひき　ちえ
綿引　千恵

①「人生で本当にやるべきことがわからない」と思っていた時に、前世療法を勧められたことがきっかけでヒプノセラピーを知りました。初めてセラピーを受けた時の衝撃が忘れられず、ヒプノ効果の秘訣を解明したいと思い、学び始めました。

②学べば学ぶほど、ヒプノセラピーの第一人者である村井先生の技術に感銘を受け、JBCH やヒプノセラピーを広める必要性を強く感じ、編集委員になりました。JBCH には素晴らしい先輩セラピストやインストラクターが多くいらっしゃいます。会員の皆様の学び・交流の場にできたら幸いです。将来はフランス等で JBCH を広めていきたいと考えています。

③ご連絡は LinkedIn もしくは Facebook から。日仏両言語、対面・オンラインで受付しています（英語要相談）。
https://www.linkedin.com/in/chie-watahiki/
https://www.facebook.com/chie.watapiki

本号では、『編集者紹介コーナー』他、各種お知らせを担当。

『News Hypno』は一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）が発行する協会会員向けの会報誌です。

運営メンバー募集のお知らせ

このたび、JBCH では、会報 News Hypno の編集ならびに、JBCH 会員限定の Facebook グループの企画・運営にご協力いただけるメンバーを公募することとなりました。

編集や運営を通じて JBCH に貢献したいと願う熱意のある方は、ぜひご応募ください。

[募集背景]
JBCH の会員向けのサービスを強化する必要があるため。

[応募資格]
JBCH の有効会員であること。
※応募時に会員資格が失効している場合は対象外となります。

[希望の人材像]
・編集や企画・運営を通じて JBCH に貢献したいと願う熱意のある方。
・ヒプノセラピーの発展に貢献したい方。
・協調性があり、チーム作業が好きな方。
・社会人としての常識のある方。

[業務内容]
・会報の編集と会報サイトの運営・管理。
・Facebook における JBCH 会員限定グループの企画・運営。

[条件]
・形態：ボランティア。
・賃金：金銭的な報酬は無し。
※編集や運営を通じて、ヒプノセラピーの知見を深めていただけるだけでなく、ヒプノセラピー界の第一線で活躍されている方たちとコミュニケーションを取る機会があり、人脈も広げていただけます。

[作業時間・休日等]
定め無し。
※ご自身のお仕事やご家庭の事情で申請していただき、メンバー内で調整いたします。

[期間]
定め無し。
※ただし、長期的にご協力いただける方を希望します。

[就業場所]
ご自宅等。
※ミーティングはほとんどオンラインで行われますので、居住地を問いません。

[開始時期]
会報第 5 号発刊に向けた編集会議から（2024 年 1 月頃を予定）。

[その他]
編集作業に必要な PC やインターネット環境はご自身でご用意ください。

[募集人数]
若干名。

[応募先]
以下の点にご注意の上、こちら（以下のリンクを貼る）よりご応募ください。
https://www.jbc-hypno.org/contact-us

お問い合わせフォーム欄の上部に表示される「お問合せ内容」には「その他」を選択し、下段に表示されるお問合せ内容欄には「運営メンバーに参加希望」とご記載の上ご応募ください。後日、代表理事の村井先生よりご連絡させていただきます。

作業に携わる場面以外でも、メンバー間で交流する機会もあり、和気藹々と活動しています。

新しいメンバーとともに、JBCH の会員の皆様に喜んでいただける企画を考えていくことを楽しみにしています！

会報掲載記事 公募のお知らせ

JBCH では、第５号より、会報 News Hypno に掲載する記事を一般公募いたします。
以下の条件をご確認の上、ご応募ください。

[応募資格]
JBCH の有効会員であること。
※応募時に会員資格が失効している場合は対象外となります。

[記事の条件]
・テーマ：ヒプノセラピーに関するもの。
例：わたしとヒプノ / 事例紹介 / 脳科学とヒプノ

[文字数]
タイトルと本文を合わせて最大 1000 字

[形式]
Microsoft Word

[締切]
第５号掲載分　2024 年 1 月 31 日

[記事が採用された方の特典]
・会報では、掲載記事とともに、著者の方のプロフィールを紹介いたします。
※応募時に 500 字程度のプロフィール内容とお写真をご準備ください。

[その他]
・採用された場合でも、本掲載にあたって加筆・修正といった編集をお願いすることがあります。ご了承ください。
・応募資格を満たしていれば、第５号以降、何度でもご応募いただけます。複数回採用された方にはさらなる特典を予定しています。

[応募先]
メールタイトルを「会報記事公募：第５号」とし、以下の点を本文内に明記の上、メールにてご応募ください。
・氏名
・氏名ふりがな
・JBCH 会員番号
・メールアドレス
・電話番号
・Word 文書を添付

[送付先]
info☆jbc-hypno.org（送信時に、☆を@に変更してください。）

後日、代表理事の村井先生よりご連絡いたします。

一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）

※当誌のすべてのコンテンツの無断転載・無断使用はご遠慮ください。

『News Hypno』第４号 2023 年 11 月発行

発行者：村井 啓一
編集委員：石井 文華/伊藤 若菜/奥田 真紀/神田 早苗/辻口 真紀/三品 あおい/綿引 千恵
編集顧問：松本 一義
発行所：一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）
〒141-0022　東京都品川区東五反田 2-7-14　五反田栗の木ビル 3F
https://www.jbc-hypno.org/

『News Hypno』は一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）が発行する協会会員向けの会報誌です。